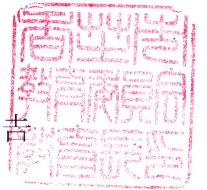


香芝市議会議長 川田 裕 様

香芝市教育委員会
教育長 小西 友吉



回 答 書

令和5年11月29日付けで提出された質問状につきまして、下記の通り回答いたします。

記

香芝市学校施設の再編等の財政比較に関する質問主意書

香芝市学校施設の再編等に関する基本方針(以下「基本方針」という。)が令和5年3月に示された。その主な内容は、香芝市公共施設等総合管理計画の試算では、公共施設の三分の一程度しか改修できないとされる。また様々な要因があるが、小学校の統廃合を行う方針が示されている。

市議会でも質した事項であるが、香芝市学校施設等長寿命化計画(以下「長寿命化計画」という。)では、耐震性能(Is 値)だけが評価されており、公的基準でも指針が示される施設のコンクリート強度などは参照されておらず、更に10 数年以上前の検査数値が用いられ、経年劣化等の重要事項は排除されていた。

尚、全国的な公共施設等の総合管理計画では人口減少を鑑み、施設の複合化又は統廃合などが国の補助指針からも示されており、香芝市単独事業として行わない場合は、長寿命化計画は事業執行が不可能であることは明らかであり、香芝市財務局に確認を行ったところ、基本方針にも示される通り、三分の一程度の財源確保が限界である旨の回答も得ている。即ち、長寿命化計画は策定における様々な要因の検証もなく、その計画自体が破綻していることが明確となっていた。

香芝市教育委員会においても、その瑕疵に気付き、速やかに長寿命化計画を見直すため、基本方針が示されたものである。

その基本方針は、学校の老朽化による公的基準の確認、人口減少による学級経営の適正性、その他様々な関係する要因を検証又は推察等により策定されたと聞き及ぶ。特に長寿

命化計画による事業推進の場合は、鎌田小学校、五位堂小学校、関屋小学校、志都美小学校などが長期の延命は困難である。子どもたちの生命財産の保護に鑑みると、改築による事業推進が妥当と指摘されていた。また、その重要な要素を加味した財源問題である国庫支出等においての試算も計画では重要な検証の一つである。

そこで、長寿命化計画と基本方針に従い改めた香芝市学校施設等長寿命化計画(以下「新長寿命化計画」という。)とを比較した場合、全小学校に係る計画を遂行した場合、財政的な検証では如何ほどの差異があるのかの確認を行うものである。

学校の統廃合問題では、全国の公共団体でも苦慮する事例が多いと聞き及ぶ。特に地域問題等も思慮する事項であろう。然しながら、学校の設置目的は、子どもたちへの教育であり、その本旨にそって統廃合が進められている。特に政治的問題に利用するなどは許されるものではないと思慮する。その本旨にも鑑み、率直な計画の比較を求めるものである。

質問

(1)長寿命化計画と基本方針による新長寿命化計画を比較した場合、国庫支出も含む事業費の差異は凡そ幾らの額と予見されるか示されたい。

【回答】

長寿命化計画と基本方針による新長寿命化計画を比較すると、長寿命化計画で改修等を進めた場合の方が、一般財源額が凡そ 1,270,300,000 円支出超過になると思われる。ただし、今回の試算は文部科学省が示す今年度の建築単価を基に算出していることから、実際には試算した以上に差異が広がる可能性がございます。

(2)事実上、破綻している長寿命化計画を推進するならば、実質公債費比率は最高値で、どれくらい上昇すると予見されるか示されたい。

【回答】

実質公債費比率の上昇予測につきましては、現時点で具体的な数値をお示しする事は困難であります。現時点で旧計画と新計画における一般財源の差異は約 13 億円が見込まれており、更に今後の物価上昇に伴う負担増のリスクも考えた場合、新計画が本市にもたらす財政的効果は非常に大きいといえ、他の計画にも大きな影響を与える恐れがあるものと考えます。